

4:1 見よ。その日が来る。かまどのように燃えながら。その日、すべて高ぶる者、すべて悪を行なう者は、わらとなる。来ようとしているその日は、彼らを焼き尽くし、根も枝も残さない。・・万軍の主は仰せられる。・・

4:2 しかし、わたしの名を恐れるあなたがたには、義の太陽が上り、その翼には、癒しがある。あなたがたは外に出て、牛舎の子牛のようにはね回る。

4:3 あなたがたはまた、悪者どもを踏みつける。彼らは、わたしが事を行なう日に、あなたがたの足の下で灰となるからだ。・・万軍の主は仰せられる。・・

4:4 あなたがたは、わたしのしもべモーセの律法を記憶せよ。それは、ホレブで、イスラエル全体のために、わたしが彼に命じたおきてと定めである。

4:5 見よ。わたしは、主の大いなる恐ろしい日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。

4:6 彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それは、わたしが来て、のろいでこの地を打ち滅ぼさないためだ。」

主は救い主であります、さばき主でもあります。私たちは自分が救われたということの意味を知るためには、自分がさばかれなければならない、罪ある存在であるということを知らなければならない。それを聞かないように、語らないように、考えないようにするなら、神様の本当の愛も分らなくなり、私たちは本当の幸いを得ることはできなくなるのです。

愛があるならば、さばきの神と、さばかれるべき

自分たちであることを、方らなければなりません。主は愛があるので、このようにマラキを通してさばきを語らせるのです。

そして、「しかし」と主は希望を与えます。

「わたしの名を恐れるあなたがたには、義の太陽が上り」とあります。主を「恐れる」ことです。主を恐れる人は、主のさばきが恐怖として臨むことがないのです。日常でも主を恐れることを忘れないように、自分の罪に気づき、認め、主のさばきと赦しを理解し、主に感謝して従い、そして主を恐れつつ、主の愛によって恵をいただき生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

